令和5年度　磐田市立竜洋西小学校　　学校評価書

重点	目標・取組	評価指標	自己評価	○考察　※改善策	学校運営協議会委員から
本気で考え みんなと学ぶ子	子ども一人ひとりが自分事として学ぶための授業改善をする。 学び合う学習集団づくりをする。	・児童が、自分の考えをもち、対話の中で学びをつくっているか。	B	○児童評価：88.6%　○教職員評価：92.9%　○保護者評価：91.7% ○「児童が、自分の考えをもち、対話の中で学びをつくる」ために、「子どもが主語の授業」をつくるための教職員の校内研修を充実させたことで、授業づくりに対する意識が高まった。しかし、各クラスの児童の実態から、学級によって児童評価の割合が少し低くなり、課題が残った。 ○「対話の中で学びをつくる」ことについて、どのような聴き方や話し方をすれば良いのかが、学校全体で統一できなかった。今後学校としての聴き方・話し方の研修を進め、児童の対話スキルを高めていく必要がある。 ※学び合う教職員集団構築のために、効果的・効率的な研修方法を今後も検討していく。	・どのクラスも真面目に授業を行っていた。また、様々な配慮が必要な児童がいる中で、職員同士が連携し合って授業を行っている姿が見られた。例えば、教室の中に支援をする教員や支援員が配置され、サポートが必要なときには、即座に対応したり声掛けをしたりしていた。子供たちが安心して学習できる教室をこれからも作っていってほしい。 ・学習の仕方について気になった点は、授業中の姿勢やえんぴつの持ち方である。特に、姿勢は話すことを聴くためにとても大切な学習態度である。対話をする指導をする中で、話を聴く姿勢についても考えさせてほしい。
自分も友達も 大切にする子	みんなで「にしのこのやくそく」を考え守れるように指導と評価を行っている。 子ども同士が関わり合いながら考え、実行できる場を工夫する。	・児童が、にしのこのやくそくを考え、みんなのために行動しているか。	A	○児童評価：90.8%　○教職員評価：92.9%　○保護者評価：94.8% ○本年度は、自分たちで学校生活を安心・安全に生活できるように、どのような約束が自分たちに必要か考えてきた。1学期には学級、2学期には学年、3学期には学校全体というように3段階で「にしのこのやくそく」をつくり、学校の皆で行動するように取り組んできた。常に意識しながら学校生活が送ることができた。 ※「にしのこのやくそく」を含め、笑顔で学校生活を送るために必要な約束の見直 しを今後も図っていきたい。 ※年度初めに教職員で児童について共通理解する場「にしのこを知る会」を設定し、タイムリーなケース会議を行い、配慮児童について発達支持的生徒指導を意識した取り組みを継続していく。	・自分たちで守る約束を自分たちで考えることがよい。その中で、最近は挨拶の声が小さいことできないことが気になっている。「おはよう」「あけましておめでとう」などの声を自分から発したり、返されたりすると、とても良い気持ちになるので、今後も挨拶の指導をいきたい。まずは、保護者や地域、学校など、一緒にいる大人がもっと挨拶を意識する必要があるのではないか。 ・読み聞かせ語りきかせのときにも、「おはようございます」からスタートできると良い。 ・約束の中で、集団登校の時の列の並び方歩き方が悪くなっている。交通標識「とまれ」を守らないケースもある。交通安全教室の中で、徹底して行きたい。 ・地区によっては、列が長くなってしまい、上級生も下級生への指導に苦労しているようだ。交通教室を通して、登校時の安全について、より具体的な危険場事例も取り上げながら、指導ができると良い。地域としては、見守り隊が少ない地区があるので、増やしていきたい。
友達と元気に 生活する子	みんなで主体的に取り組む学校行事、授業、外遊びを子どもと工夫する。 健康の日や栄養指導などを通して、子ども自らの健康に関心をもつ指導、　見届けを行う。	・児童が、友達と仲良く関わり合いながら、楽しんで運動や外遊びをしているか。	A	○児童評価：89.2%　○教職員評価：92.9%　○保護者評価：91.7% ○体を動かすことが、本校の児童において習慣になっており、本校の児童の良さであると考えられる。 ※2極化が進み、運動や外遊びを好む児童と室内で遊ぶことを好む児童が分かれているので、今後も集団で体を動かすことができるような工夫を考えていく。 ※本校の日課表の特色である水曜日のロング昼休みを有効に活用し、運動や外遊びを通して人間関係づくりができるように、今後も教職員の共通理解を図っていく。	・外で遊ぶ機会が地域では、減っている気がする。家の中で、ゲームをしたりテレビなどを見たりする時間が各家庭で増えている。しかし、このような時代に外に出して危険な目に合う可能性があるため、安全面を考えるとそうしたことは否定できない。学校の中で、外で遊ぶ機会があることはとても良い。 ・今年度、今までの「持久走大会」が「持久走記録会」に変わった。順位にこだわらないで、自分の記録に挑戦するという目的が良い。持久走記録会での児童のがんばりを見たいという保護者もいると考えると、今後どのように運営していくことがよいか検討してほしい。
深い子ども理解	教師は子どものことを理解して指導にあたる。	・教師は、子どものことを理解して指導にあたっているか。	A	○児童評価「学校が楽しい」：92.4% ○教職員評価「子どもたちは学校生活を楽しんでいる」100% ○保護者評価「教師は子どものことを理解して指導にあたっている」：93.3% ○子ども理解に対し、保護者の信頼を得ることができている。 ※学習面では、個別最適な学びと協働的な学びの推進を図りながら、「子供が主語になる授業づくり」を目指して校内研修を進めていく。生活面では、すべての児童が楽しい学校生活が送れるように教育活動を推進していく。家庭・地域・関係機関と連携をし、学校教育目標「えがおかかがくにしの子」達成を目指し、「子ども中心の学校」をつくるなかで、「にしのこスマイル」がさらに広がっていくように教職員一体となって指導する。	・アンケートの結果として、児童も教職員も保護者も90%と高い評価になっている。しかし、見方を変えると、「学校が楽しい」と回答している割合も、その他の評価指標においても、児童が一番低くなっている。また、7.6パーセントの子が学校が楽しいと回答していない。その子供たちの原因を知り、寄り添っていってほしい。
	教師は子どもの姿から、子どもや保護者と適切に面談、連絡、相談を行う。	・教師は、子どもの姿から、子どもや保護者と適切に面談、連絡、相談を行っているか。	B	○児童評価 「困ったことがあったとき、担任の先生や他の先生に相談している」：85.6% ○教職員評価 「子どもたちは、学校に相談できる人がいる。」：85.7% ○保護者評価 「教師は子どもや保護者と適切に面談、連絡、相談を行っている。」：89.9% ○生徒指導上の問題行動・不登校・別室登校・いじめ等で困っている際は、できるだけ迅速に組織として対応し、相談を行ってきた。 ※児童の表情や言動から変化を読み取ったり、生活アンケートや相談を個々のタブレットPCから聞き取ったりすることで、悩みや問題をいち早く掴み、学年主任、生徒指導主任を中心に連絡、相談体制の充実を今後も図っていく。必要に応じて面談を設定する。	・不登校、いじめ、別室登校等困っている子が一定数いることが心配である。そんなとき、やはり、周りにいる大人がとても大切だと感じる。学校で一緒にいる担任、心の相談員、養護教諭、生徒指導主任はもちろん、関係機関と連携を取り合いながら関わってほしい。自分が子供を育てるのだという親の意識が低下しているように感じる。やはり一番近くにいる保護者・家庭が、子供を育てる責任感をもって、相談をしていってほしい。心や家庭環境の悩みはスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを有効に活用できると良い。
安全・安心の保障	教職員はいじめや問題行動があったとき、適切に対応する。	・教職員は、いじめや問題行動があったとき、適切に対応しているか。	A	○児童評価：90.8%　○教職員評価：100%　○保護者評価：90.3% ○丁寧な連絡対応を意識して行ったため、保護者からの信頼を得ることが出来た。 ※初期対応とともに、事後の継続的な支援の充実を図り、より丁寧な対応を心掛ける。児童も保護者も100%評価になるように、今年度同様職員会議で生徒指導の事例研修を行い、学年や学級で差が出ないように、指導方法を確認し共通理解を図っていく。	・いじめが起こらないように、積極的な生徒指導を行っていることが分かった。また、「いじめは絶対にゆるさない」「相手がいやなきもちになったらそれはもういじめ」というように教職員が共通理解をしていた。問題行動やいじめには、未然防止、早期発見、早期解決に向けて、教職員が連携して取り組んでいることが分かった。 ・子供が周りや相手に気を遣えるようになることで、いじめがなくなるのではないか。
地域とともにある学校	学校は、学校教育目標「えがお　かがやくにしのこ」を実現するための教育活動を、日々推進する。	・学校は、学校教育目標「えがお　かがやくにしのこ」を実現するために、日々の教育活動を行っているか。	A	○児童評価：91.0%　○教職員評価：92.9%　○保護者評価：95.7% ○学校教育目標「えがおかがやくにしのこ」達成に向け「気付いて考動」「みんなとやってみよう→やってよかった」を合い言葉に、日々の教育活動を行っていきた。その結果、児童にも保護者にもその意識が浸透し 学校教育目標具現化のための取組が推進された。また、地域の力を積極的に取り入れることで、学校内の環境整備や人的環境が整い、地域とともに子供たちを育てる教育活動を進めている成果であると考える。 ※学校運営協議会の委員の方々やCSCとの連携により充実した教育活動を行えた実績を踏まえ、来年度も、より学校と地域が連携できる取組を教育計画 に位置付けるようにしていく。	・学校の先生が「子どもたちの笑顔が輝くように」一生懸命頑張っていることは分かっている。ただ、学校でもなかなか対応ができないような要求については、すべてに対応する必要はないのではないか。できないものはできないと、きっぱり言うことが先生の負担を減らし、ゆくゆくは子どもたちの日々の生活に反映されていくと考える。例えば、持久走記録会の健康チェックは記録会のあとは提出しない、参観会のときのスリッパは出さない等。先生の業務改善のためにできることを、学校運営協議会委員も考え、協力していく。

学校関係者評価を受けてのまとめ

「本気で考え　みんなと学ぶ子」「自分も友達も大切にする子」「友達と元気に生活する子」という3部の重点目標が達成できるように、今年度の評価が良かったところについては継続して推進し、また改善策を中心に来年度の教育課程に反映させていく。学校運営協議会委員の皆様にいただいた「挨拶」「集団登校」「学習態度・姿勢」「不登校、別室登校時の対応」については今後すぐに対応していきたい。業務改善の視点についても考えを共有できたので、連携を深め、学校教育目標「えがおかかがやく　にしのこ」達成のために教育活動を推進していく。